

## 児童養護施設からの出発

坂上和子「NPO 法人病気の子ども支援ネット遊びのボランティア理事長（保育士）」

高度医療の病院の小児病棟で遊びのボランティアを立ち上げて 20 年。がんなど難病の子どもと家族に寄り添い患者家族の声を社会と結ぶ。医療の現場でボランティア、しかも遊ぶという非常識を常識にしようと活動。11 歳から児童養護施設で暮らし、そこで学んだことが活動のベースになっているのでは？とされている。

### 1、養護施設に出会うまで ～小学5年まで

昭和 29 年 7 月生まれ 出身：大分県別府市

家族は両親と 4 人きょうだい 母 39 歳で自殺後祖母宅で 1 年過ごす。兄の中学卒業で上京しきょうだい 4 人で暮す。

不慮の事故から児童相談所を経て児童養護施設へ—昭和 40 年 1965 年当時 11 歳

### 2、児童養護施設での 9 年間の暮らし（5 年生から高校卒業まで）

カトリック修道女たちと寝起きをともに。祈りで始まり祈りで終わる。300 人の大所帯。クラスメートは 12 人。

隔離と洗脳教育 テレビ・ラジオ禁止、面会は月 1 回、

中高生は働き手、乳児院や幼稚園児のお世話をして助け合う

「青少年にひまをあたえてはならない」ドン・ボスコ神父の教えと「清貧の徳」

子どもの涙 「大学へ行きたい！」進学かなわず、

### 3、施設卒業後 自立から遊びのボランティア設立まで

上智社会福祉専門学校入学 19 歳。忘れられない授業—霜山徳爾先生

1977 年新宿区就職立保育園勤務 結婚 この間 2 児出産育児 7 年後退職

1984 年 運命を変えた悪性リンパ腫 4 歳坊やとの出会い

1989 年 あゆみの家の非常勤～2000 年 3 月退職

1991 年遊びのボランティアを職場の仲間と立ち上げる

2000 年新宿区立こども家庭支援センターワーカー非常勤・離婚

2001 年 4 月明治学院大学社会福祉学科入学・05 年 3 月卒業

2005 年アメリカカナダこども病院ボランティア視察・小児がん 8 歳少女との出会い

2006 年 NPO 法人設立

2011 年 9 月遊びのボランティア 20 周年記念フォーラム開催

著書「病院で子どもが輝いた日」「病気になってもいっぱい遊びたい」ともにあけび書房